

## 参加者による記録

2015年1月17日(土)

17:30～ 事前勉強会・結団式

報告：渡邊ひな子

今年のスタディ・ツアーは、事前勉強会と懇親会を例年通り羽田空港に直結した羽田エクセルホテル東急内で行い視察に臨んだ。

事前勉強会・結団式では吉井会長の挨拶、参加者全員の自己紹介後、渡邊副会長からアジア連帯委員会の歴史・活動概要、ラオス、タイの訪問先の説明等が説明され、その後、航空券等必要書類が各参加者に手渡された。また、日替わりで団長や記録係りを担当するため、訪問先での挨拶、記録、写真の役割を決め、挨拶をする訪問先へのお土産などを分担した。

(実は今年はPPを使用し、訪問先等の説明をじっくり行う予定だったが、できなくて残念だった。)

最初は緊張気味だったメンバーも懇親会での乾杯後にかなり打ち解けた後、羽田国際空港行きシャトルバスで国際線ターミナルに移動、JALカウンターでチェックイン手続きをおこなった。いよいよ2015CSAワーキング・スタディ・ツアーの出発です。



吉井会長の見送りを受けて出発

(事前勉強会・結団式 吉井会長がお見送り)

2015年1月18日(日)

報告：渡邊ひな子

JL033 00:05 羽田発 — 04:55 タイ・バンコク

早朝、バンコク・クスワナプーム国際空港に到着。バンコクエアのラウンジで休息、各自空港ターミナル内を見学後、PG943便でビエンチャンに向け出発。

PG943 09:45 バンコク発 — 11:00 ビエンチャン着

ビエンチャン・ワットアイ国際空港では通訳/コーディネーターのフンペンさんに出迎えられ、フランス植民地であった頃の建物を改装したメルキュールホテルに荷物を置いて、ラオスで初めての食事をメコン河沿いのレストランで。無事の到着を祝いまずはBeer Laoで乾杯。

ホテルにチェックイン後、ビエンチャンのシンボルともいえるタートルアン寺院、凱旋門などを視察。夜はベトナム料理レストランで。



ビアラーオで最初の乾杯

2015年1月19日（月）

報告：可野 淳二

7：45 ホテル出発

ナカン村までは車で約3時間の道のり、途中から悪路と砂ボコリと牛の群れに遭遇しながら、まるでサファリパークを走行しているような感覚であった。「これがラオスなんや！！」と実感

11：00 ナカン村小学校（5番目）

団長は森 泰隆氏が勤めた。  
訪問時はテスト中だった為、生徒はまだ教室で待機中でした。

まず校内に案内されてテオカペット校長から学校の説明を受けました。

■歴史について1968年お寺から1978年ここに移動、1998年日本のCSAとUNCHRとラオス労働省の協力で32000ドルで建設された。

■生徒数 222人 内訳1年生—22人  
2年生—41人 3年生—52人  
4年生 54人 5年生—43人

■校内の問題点

- \* 壁の汚れが目立つ
- \* 廊下の天井裏の剥がれ
- \* トイレの便器が1台破損している
- \* トイレの給水設備を改善してほしい（貯水タンクを大型にしてほしい）
- \* 先生のパソコンがほしい

その後 校庭でサッカーボール・バレーボール・文房具の贈呈式を行った  
そして教室で折り紙、校庭で綱引き合戦、サッカー・バレーボール等で交流を図りました。また私が作ったバルーンアートは子供達に珍しさもあり大変喜んでくれました。  
最後に特産品のバナナと山椒の実を沢山頂きました。 感謝です！  
昼食は近隣の食堂で先生方と歓談後、学校を後にしました。

14：20 ファサン村小学校（24番目）団長 川端 茂雄氏

ナカン村から約20k 第一印象はナカン小学校に比べて校舎も新しくまた生徒数も多く校庭も広く感じました。

早速、教室に案内されて、大きなココナッツミルクのおもてなしを受けました。

代表者、ブーンホーム校長から説明を受けました。

■村民人口：4478人（内訳：ラオ族：671人



ナカン村小学校で文具などを贈呈



ナカン村小学校のトイレ - 修理が必要



教師との懇談で挨拶する川端団長  
— ココナッツが振舞われました

中ラオ族：116人

モン族：3691人

■教師数 22人（女子8人）

■生徒数 759人（女子337人）1年生200（91）2年生183（72）  
3年生135人（9）4年生116（48）5年生125（61）

■校内の問題点

\*生徒はラオ族とモン族が共学している為、先生と生徒の間に「言葉の壁」が存在する。

少数民族で言葉が理解できない生徒は、歌を聞いて言葉を覚えていくそうです。

\*教室が不足している為、いまだに古い竹の旧校舎を利用している

\*乾季は井戸が浅く、水が枯れてくること。新しい井戸がほしい

\*校舎がもう1校ほしい。教室には生徒の願望である4F建ての校舎の絵が描かれていたことが印象的であった。

その後、校庭でサッカーボール・バレーボール・文房具・の贈呈式を行ったが、贈呈のタイミングが分かりにくかった。

最後にまた生徒・先生・我がメンバーで綱引き大会を行った。先生VS 我がチームは先生チームの勝利で終わった。途中ラオスの歓迎儀式で度の強い焼酎をご馳走になりましたが、私には強烈過ぎて一掬に飲み干すことはできなかった。そして心地よい疲労感で車に乗り込み、子供達に送迎されながら学校を後にしました。

2校共問題点が多数ありましたが、できることからアフターケアが必要だと感じました。



新設のファサン村小学校校舎

岐路の途中、後部タイヤパンクといったアクシデントもあったが、皆さんの協力で修理作業を終えた。そして煌々星座を眺めながら、20時近くにホテルに到着。フンペンさんとドライバーの方、長時間安全運転お疲れ様でした。ありがとうございました！



ビエンチャンからの距離

ビエンチャン ⇒ ナカン村

約120k

ナカン村 ⇒ ファサイ村

約20k

ファサン村 ⇒ ホテル

約160k

全工程 約300kでした

2015年 1月20日（火）

8：30～ ラオス教育・スポーツ省

報告：戸梶 貴明

ラオス教育・スポーツ省を訪問した。若月団長の挨拶の後、ラオスの小学校の総責任者であるミトン初等教育局長から以下のご挨拶とお礼の言葉を頂いた。

「これまでCSAが数多くの学校を作ってくれたことに大変感謝している。昨年、ファサン村に基幹労連が新しい学校を作ってくれた。

CSAの渡邊副会長と基幹労連の視察団とともに譲渡式へ参加してきたところである。今後も大事に使わせて頂く。

ラオス政府としても教育に力を入れているつもりだが、課題がたくさんある。ラオス政府は小集落を集約して大きな町を作ったが、子供たち全員を学校が受け入れきれず、大問題になった。

また、遠く離れた村にはいまだ学校が無いところもある。経済発展よりも先に教育が大事であることは日本の連合CSAから学んだ。

これからもラオスが発展していくために、日本にアドバイスを頂きながら一緒に取り組んでいきたい。

今回の視察で見たこと、感じたことを日本に帰って支援して頂いている皆さんへ伝えてください。私たちは日本とラオスの友好関係を大切に思っています。」

との言葉を受けた。



ミトン初等教育局長と

9：30～ ラオス日本大使館

在ラオス日本国大使館を訪問した。黒田団長の挨拶の後、大西参事官よりラオスの概要について説明を頂いた。

冒頭、大西参事官より、1月16日に日本-ラオスの直行便就航が決定したことに対して、今後益々日本とラオスの交流が深まることへの期待が述べられた。

以下、概要・教育については、学校を増やしても先生を増やせないラオス政府の対応や、英語教育が不足していること、小学校に入学しても最終学年まで到達する生徒が71%であることなど、課題があると認識している。

- 医療については、乳幼児死亡率、妊産婦死亡率が依然として高いことや、予防接種の接種率が低いことなどの課題がある。
- 産業については、この10年間でタイ・中国向け車両パーツなどの製造が大幅に拡大しており、農業から工業へと明らかにシフトした。メコン川水力発電により、電力供給が周辺国に比べ安定していることや、周辺諸国の賃金上昇、反日暴動のリスクが低いいため、日系企業の進出も増加している。
- 周辺インフラについては、周辺5か国の経



ラオス日本国大使館 大西参事官と共に

済交流が増大しており、5か国の中央部に位置するラオスはどこの国へ行くにも通過しなければならない国として位置づけられ、インフラ面での開発スピードが目まぐるしい。中国からシンガポールまでの高速鉄道を中国が民間事業として計画しているが、ラオスを経由する場合の投資負担についてはラオス国内で慎重論がある。逆にタイにおける日本式新幹線をラオスの首都であるビエンチャンまで持ってくると、ラオスには多様な経済効果があると考えられる。

- 労働に関しては、これまで農業をしていれば生活ができたこと、お金が必要であればタイへ出稼ぎに出れば良いと認識していることなど、労働に関しては日本と認識が違う。
- ODA拠出額は1991年以降、日本が最大の援助国である。一方で中国が驚異的に企業進出をすすめるラオス国内での存在感を強めている。今後これらとどう向き合っていくかが日本としての課題である。

最後に、大西参事官より、「ラオス国民は家族と一緒に過ごす時間を大事にしている。開発を焦らない。争うことを嫌う。農業で食べていけるのでお金を必要としない。」ことなどを例に挙げ、「精神的に豊かで幸せな国民である。」と述べられた。

CSAの役割について振り返る良い機会となった。

## 11：25～ ラオス保健省との意見交換

報告：柳瀬 好文

ラオス保健省を訪問した。戸梶団長の挨拶の後、ナオ・ブッタ官房長官から歓迎の挨拶を頂いた。

「毎年のCSAの衣類支援に対して感謝申し上げます。ラオス北部はまだまだ貧困世帯が多く存在する。今年も寒波が厳しいため、頂いた衣料が大変役にたっている。日本に戻られたら、支援者の方へお礼の言葉をお伝えください。これまでラオス保健省の大臣であったカンブーンさんが、ファパン県の知事に就任した。CSAの方が来たらよろしく伝えてくれと伝言があった。これらも日本とラオスの友好がさらに深まっていくことを願っている。」



ラオス保健省でナオ・ブッタ官房長官を表敬訪

## 14：00 ラオス保健省救援衣類保管倉庫

ラオス保健省の救援衣類保管倉庫を視察した。救援衣類は、JICAからの支援で建設された医療用品格納倉庫の一角を借りて保管されている。救援衣類は、昨年10月25日にラオスへ到着し、11月1日に倉庫へ届けられた。その後8名の職員で男・女、大人・子供の仕分け作業を行い、既にラオス北部の寒冷地へ送付されていた。必要に応じて各県から直接もらいに来ることもあるが、基本的にはラオス保健省の指示でラオス国内18県に送付しているとのこと。視察を終え、鈴木団長より、「私たちの善意がラオスの役に立ってうれしい。今後もラオスの幸せを願っている。困った



挨拶をする鈴木団長

ことがあれば何でも伝えてほしい。」とお礼の挨拶が述べられた。また、少人数で振り分けを行っていることに対して、せっかくの善意が現地で負担となっていることにも触れ、今後日本からの送付方法については改善の余地がある、との課題を視察団で共有した。



衣類保管している倉庫でラオス保健省スタッフと

2015年1月20日（火曜日）

16：00 AAR 難民を助ける会ラオス事務所

報告：若月 利之

AAR難民を助ける会は1979年に設立され、インドシナ難民を支援してきた国際NGOで、ラオスでは2000年より活動を展開している。主な活動としては、①車いすの組み立てと普及支援、②障がい者向けの小規模企業支援、そして③不発弾問題支援を行っている。

①の車いすの組み立て・普及支援については、2000年から2011年まで、車いす製作や検査のためのトレーニング、その普及など、着実に活動の基盤を築いてきた。

②の障がい者向けの小規模企業支援については、キノコの栽培のための菌を植えたおがくず、養殖目的のためのナマズの稚魚はAARが用意し、それらを障がい者に配布、それらを活用して収益を上げるための支援を行ってきた。

③の不発弾問題支援については、ベトナム戦争時に投下されたクラスター爆弾の不発弾による被害者や、その地域の住民に対する医療体制の整備や、不発弾の危険性に関する教育活動を実施している。実際落とされた爆弾は300トンで、うち30～40%が不発弾といわれている。完全除去まであと100年は要するとの試算がある。

広大な国土に600万人程度の人口では、税収が大変少なく、インフラの整備もままならないことはビエンチャンの日本大使館でも伺った話だ。こういった不発弾処理に対しての活動にも財政的な問題で処理がいっこうに進まない。こういった草の根の活動が実は大変重要であることを改めて認識した訪問であった。



ラオスの地雷状況等の説明を AAR スタッフより

18：30 CSA高校生寮卒業生との交流

報告：若月 利之

この日は、サンティパープ高校寮を卒業して、現在ビエンチャン大学の学生であったり、すでに仕事をしていたりする卒業生との交流会があった。CSAの活動をこれまで支えてきた方が経営されている佐古商店のレストランを貸し切って行われた。

卒業生は20名ほどが集まり、ラオス料理と日本料理が半々ずつ出された食事を囲み、またビンゴゲームをしたりと楽しく過ごすことができた。卒業生全員が英語を話すことが出来たことから、団員の方々はこの訪問先と比べれば、交流を楽しまれていたと思う。私が

直接話をした卒業生は、「この交流会に参加するのは3回目だが、日本の方々と交流が出来ることを毎年楽しみにしている。また、今の自分があるのも、CSAの支援があったからだ。」と謝意を述べてくれた。

CSAの事業は確かに草の根支援ではあるが、着実に日本とラオスの交流の架け橋となっていることを強く感じた。

その交流の場で、団員の皆さんが、直接交流した卒業生と今後もつながりを続けていきたいと、LINEのIDなどを交換されていたのがとても印象的であった。



ツアー参加者と共にビンゴゲームを楽しむ卒業生

2015年 1月21日(火)

報告：黒田 誠

### ノンカイ・リハビリテーションセンター衣類引き渡し式

当日はラオスからタイのノンカイまで、メコン河を渡り国境を越え、車で約一時間の移動の後、救援衣類の引渡し式を行う、タイ社会開発福祉省の運営する障がい者職業訓練施設に到着。

### ノンカイ障がい者センター内の体育館で引き渡し式を実施

近隣の村長等多くの関係者が来賓として参加。昨年の模様をDVDで鑑賞し、村民や子ども達、一人一人に衣類等の救援物資の手渡しを行なう。その後、私たちツアーの参加者には御礼の品として記念品やお土産を受け取った。その品は現在、施設で訓練している方の手作り商品も含まれているという。同時に来年用のDVD用の撮影も職員が行っていた。(3日後に観ることが出来た、してYOUTUBEにアップされていた)

体育館の外では足の不自由な方々のための手動の自転車贈呈を行なった。



タイ政府への衣類引渡し式



村民や障がい者に衣類や毛布を手渡しするツアー参加者

### ノンカイ障がい者職業訓練センター視察

様々な分野に分かれて訓練施設があった。パソコンを使用したりリハビリ施設、障がいの度合いによって与えられる作業が変わる。例えば指を失った人たちはマウスだけ勉強し

たり、やキーボードを操作できる人たちには打ち込みする内容で行なっていた。

マッサージでは全盲の方や視力の弱い人たちがタイ式のマッサージの訓練を受講しており、実際にツアー参加者がマッサージの体験をした。

洋服の施設ではミシンを使う人や手縫い、型を切る人など、はやり障がいに合わせて作業を担当している。そこで作成された品が実際に販売されており、最後にお土産としてみんなが購入した。

美容院では髪を洗う人、切る人など時間を掛けて教えているとのこと。その他電気修理やバイク修理の職業訓練もあった。



訓練生によるマッサージ体験をする

## 昼食会

施設関係者と昼食会で、現状の問題点や課題などの情報交換を行なった。

2015年1月21日(水)

ビエンチャンからルアンプラバンへ移動

QV103 17:00 ビエンチャン発

18:00 ルアンプラバン着

ラオ航空国内線でスムーズなフライトや景色を楽しむ間もなくルアンプラバンに到着した。今回はメコン河沿いのロッジ。隣がお寺で朝の托鉢を見られそう。チェックイン後、散策しつつ夕食会場のオープンレストランへ。メコン河と対岸の、のどかなラオスの風景、ビアラーオ、ルアンプラバン名物のソーセージや川海苔、そしててんこ盛りのもち米などを楽しみながら、皆しだいに交渉等の話で盛り上がり始めた。さすが組合役員！今回は異業種労組との交流の場にもなりました。



ビエンチャン国内線空港で



風情のあった宿泊先

2015年1月22日(木)

08:30 ルアンプラバン県教育スポーツ省表敬

報告：川端 茂雄

ルアンプラバン県教育スポーツ省 ユーン局長が出席のもと意見交換を実施した。

冒頭、ユーン局長より歓迎の辞が述べられた。小学校建設については、「ラオスの教育発展に寄与する活動であり、CSAの活動に対し心から感謝する。」「特に北部における小学校建設はラオス北部の発展、ひいては国の発展に極めて重要な活動である。」また高校寮の建設については「寮生達は大変優秀であり、成績は国内でもトップクラスである。」「卒業生



は国内外で活躍し、日本にも数名留学・就職している人もいる」旨の報告があった。

平成23年に東日本大震災が起こった際、生徒たちは日本が大変なことになっている。今後支援してもらえないのではないかと心配していた。しかし、例年通りの活動をしてくれた事に心より感謝する。生徒たちはCSAの皆さんが来ることを大変楽しみにしていることなどの説明を受けた。

続いて、CSAワーキング・スタディ・ツアーを代表し若月団長から、本ツアーの主旨・CSAの活動内容及び受け入れしてくれた事に対する御礼の挨拶を述べ、お菓子、カレンダーなどのお土産を手渡した。

その後質疑応答を行った。主な質疑は以下のとおり。

1. ルアンプラバンに高校はいくつあるのか⇒48校あり、師範学校1校・大学1校ある。
2. 生徒何人に対し先生1人なのか⇒小学校28~30人、中学校25~26人、高校 25~26人  
(しかしながら、町中の学校は、生徒が多いため70人くらいのクラスもある。)
3. 先生の平均年齢は⇒30~35歳くらい。
4. 大学を卒業した学生の就職先は⇒外国語のガイド、学校の先生、各省庁など多岐にわたる。
5. CSAとして今後できることはあるか⇒日本へ留学する生徒へ支援してほしい。

最後にCSA渡邊副会長より、寮生が成績上位であることは嬉しく思う。今後一人でも多く国立大学に進学できることを祈っていると発言があった。



ユーン教育局長にお土産を渡す若月団長

## 09:30 サンティパーブ高校寮の訪問

報告：川端 茂雄

ルアンプラバンのサンティパーブ高校学生寮を訪れ、寮生との交流会を行った。寮を訪れると、寮生達が玄関前に集まり、温かく出迎えてくれた。

サンティパーブ高校の生徒は、約3600人、教員202人、80教室ある大きな学校であった。そのうち、学生寮には北部の県を中心に90人（女生徒20人）の学生がおり、勉強に日々励んでいる。

歓迎のあいさつでは、校長や、寮長などからCSAの日頃の支援に対する感謝のあいさつがあり、現在は試験が終わったばかりであること、運動会や文化祭のようなイベントもあること、寮生たちは高校の中でも特に優秀であること、寮生が自分たちで野菜の栽培や鶏の飼育をしていることなど、寮生活の一端を聞かせてもらった。

CSAワーキング・スタディ・ツアーを代表し柳瀬団長から歓迎に対するお礼の挨拶をした。

CSAのメンバーから生徒たちに対し、「日本語を勉強したい人」「日本に行きたい人」の挙手を求めたら、全員が挙手をしてくれた。しかしなが



出迎えてくれた寮生たち



日本に来たい人、手を挙げて！

ら、日本語を教える教師が居ないのが現実であることを教えてもらった。

その後、ラオス民族の踊りが披露されました。その後、ツアーメンバーを巻き込んでの踊りとなり、我々も見よう見まねで踊りました。

続いて、私たちが歓迎するバーシー儀式が始まりました。祭壇のようなものを囲んで、全員が輪を作りお祈りした後、先生・学生全員が私たちの手首に歓迎の言葉や健康のお祈りをしながらミサングのように紐を結んでくれました。みんなが丁寧にお祈りしながら結んでくれました。

歓迎の式典の後、寮の視察を行いました。ツアーメンバーからトイレや給食室は不衛生であるため早急に補修する必要があるとの意見があった。

学校や寮の建設をすることと併せ、その後の維持・管理も忘れてはならない活動であると感じました。



届いた救援衣類を寮生に渡しました

2015年1月22日（木）

バンコクへ移動

17:20 PG946 ルアンプラバン発

19:20 タイ・バンコク着

タイのスワナブーム国際空港に無事到着。出迎えてくれたガイドのチャイさんと共にバスでスクビット大通りからソイ（路地）を入ったホテルへ移動。高層ビルが乱立し眩いばかりのバンコクの夜景と薄暗くほとんど道路照明のないラオスの違いに皆、両国の経済力の格差を痛感した。チェックイン後、街でタイバーツに両替後、夕食会場のタイスキレストランへ。



お世話になったフンペンさんと（通訳 / コーディネーター）

2015年1月23日（金）

09:30 在タイ日本大使館

報告：森 泰隆

今回我々がお世話になったのは、坪井一等書記官であった。川端団長の挨拶を行った後、お互いの自己紹介をし、その後坪井一等書記官から、「タイの経済事情と労働事情」についての説明をしていただいた。

まず、日本との関係であるが、日本にとってタイは輸出第6位・輸入第12位国である。一方、タイにとって日本は、輸出第3位・輸入1位国であり、貿易の数字だけ見てもタイと日本は経済の結び付きが強いことが伺える。

また、従来は大手企業や商社の進出が多かったが、最近では中小企業の進出も増加し日系企業が約6000社存在し、日本人駐在員数は世界最多の2万9千人が駐在している。

次に、就業構造としては、農林水産業が40%、小売業が15.4%、製造業が14%を占め

ている。全就業人口の14%程度である製造業がGDPの33%を占める一方で、全体の40%を占める農業はGDPの12%程度にとどまっている。

雇用情勢は、至近5年間失業率が1%を下回っているものの、若年層の失業率は依然として高い水準となっている。また、至近においては、賃金格差の問題からジョブホッピングが多く見受けられ、技術技能継承更には人材育成に苦慮している実態があり、中長期的にこうした課題を解決していくためには、タイ国民の労働に対する意識の改革や有効な労使関係の早期構築が必要となっているということであった。

そのほかにも、労働力を確保していくための雇用政策や外国人労働者への対応更には最賃・労働法制の改正・安全衛生法・障害者雇用政策・労使関係の政策についての説明をしていただいた。

その後、質疑・意見交換を行った。最後に大使館入口で参加者全員で記念撮影を撮り、在タイ日本大使館を後にした。



2015年1月23日(金)

11:30 タイ社会開発福祉省倉庫(救援衣類保管倉庫)

報告: 鈴木 教子

在タイ日本大使館訪問にて時間が押してしまい、当初の予定より少し遅れて倉庫へ到着。

倉庫を管理している現地スタッフと新しい美人女性通訳の方が私たちを迎い入れてくれた。

まずは、タイ社会開発福祉省(DSDW)の母体説明から始まる。

設立は1979年2月27日。DCDWWは国営の組織であり、そのターゲットは年配や日常的に支援を必要とする者、貧困層、災害被害者、ホームレス等であり、彼らが社会で独立することを目的として活動している組織であると説明を受けた。



タイ倉庫内の衣類の仕分け - 大変そう

私たちが日本から「救援衣料」として送っている中古衣類は、現地スタッフが手作業で仕分けを行っており、①衣類の傷み ②防寒着用・一般着用 ③大人用・子供用 ④男性用・女性用 の目線で選別作業を行っている。その中で日本の衣類は傷みが少ないと報告を受け、自分の事のように嬉しかった。

DSDWは、タイ国内に運営組織団体があり、各地域団体から発送の依頼を受けると全国へ発送の作業を行うが、それ以外の地域から依頼を受けると、まずは資料を貰い、現状の確認を行った後、発送業務を行っている。発送業務の繁忙期は年末年始が多いが、震災等特別な事があった際にも忙しくなると言う。

次に倉庫内で山積みとなっているダンボールの視察を行う。

天井まで山積みとなっており、自分達の輸送したダンボールを探すのは困難かと思われたが、ニトリ・帝人・とりせん・高島屋・アシックスなど各単組のダンボールを発見することができ、私たちの取組みが役に立っていると直接肌で感じる事が出来た。



届いている救援衣類の箱数の多さに呆然

#### ◆質疑応答

Q必要な衣類はどんな種類のものですか？

⇒今年は防寒着が少なかったため、現地よりリクエストが多かった。またぬいぐるみやジャージ、小学生以上のサイズの衣類や、上下セットの衣類も大変喜ばれます。  
※タイ北部は非常に寒く、一年中防寒着が必要とされています。

Q衣類で特に好まれる色などはありますか？

⇒特にありません。

Q衣類のリサイクル（二次活用）についてはどう対応されていますか？

⇒兄弟姉妹が多いので、兄姉→弟妹に引き継がれて衣類を着用しているケースが多いです。

#### 14：00～昼食会、ワットベンジャマボピットなど

最後の公式行事後、タイ社会開発福祉省のご招待によるタイ料理レストランで昼食をごちそうになった。本場のトムヤムクンの絶妙な味に全員脱帽。がんばったご褒美ですね。

その後、ワット・ベンジャマボピット（大理石寺院）に寄り、公式行事無事終了の感謝のお参りを全員で。

最後の夕食会を経てスワナブーム国際空港へ。



公式行事 無事に終了いたしました — 感謝！

#### 22：25 JL034 バンコク発

2015年 1月24日(土)

07：00 成田空港着

無事羽田に到着。入国審査を済ませ、渡邊副会長の解団宣言後、各自の労をねぎらいつつ再会を誓い、全員帰路に着きました。可野さんは乗り継ぎで大阪へ。皆様、大変お疲れ様でした。再見！



タイ・ノンカイでの救援衣類引渡し式で年配者に衣類を配布



ファサン村小学校で生徒たちと



サンティパープ高校の寮生たちと一緒に